

生物科学学会連合 第4回連絡会議記録

日 時： 2000年4月13日(木)午後2時30分～4時30分

場 所： 学士会分館(東京・本郷)

出席者： 星 元紀(世話役, 日本動物学会)

石和 貞男(日本遺伝学会)

中野 明彦(日本細胞生物学会)

駒嶺 穆(日本植物学会)

邑田 仁(日本植物学会)

大森 正之(日本植物生理学会)

脊山 洋右(日本生化学会)

野村 正彦(日本神経化学会)

松本 忠夫(日本生態学会)

片山 舒康(日本生物教育学会)

木下 一彦(日本生物物理学会)

本郷 利憲(日本生理学会)

上村 慎治(日本動物学会)

八杉 貞雄(日本発生生物学会)

菊山 榮(日本比較内分泌学会)

斎藤 隆(日本免疫学会)

(欠席) 日本解剖学会 日本神経科学学会 日本分子生物学会

- 配布資料：
1. 第4回連絡会議 Agenda
 2. 第2回連絡会議記録(案)
 3. 第3回連絡会議記録(案)
 4. 日本動物学会ポストクアンケート HP 見本

議事要旨：

- 1) 2000年度世話役は日本植物学会にお願いすることとなり、駒嶺 穆 日本植物学会理事長より挨拶があった。
- 2) 教育問題について、今年4月6日に東大駒場で開かれたシンポジウムの概要(詳細は動物学会 HP を参照)が紹介された。
- 3) 実験動物の規制について、哺乳類の他に爬虫類も規制対象となったこと、魚類は様子見とのこと。着実に外堀は埋まりつつあり、実験動物が環境保護団体の唯一残る攻撃目標なので予断を許さないとの報告があった(詳細は生理誌 62 巻 2 号 p. 90 参照)。新聞の意見広告などによる対抗措置が必要ではないかと発言があった。
- 4) 研究環境をめぐる諸問題については、科学技術基本計画の勧告(科学技術庁 HP 参照)により、建物予算と文教予算の分離が進み研究環境は更に悪化していることが指摘され、私立大学への視点も提議されたが、国立大学が改善されれば好影響は私立大学にまで及ぶとの考えもあって、本学会連合が文部省に対し改善を要求するなど声を上げるべき時との意見で一致した。文案を作成の上実行に移すこととした。
- 5) 公務員試験に関連して、生物系として枠を設けていないので採用できないとの文部省弁、大枠で採用し分野に配分する方向に採用制度を見直し中の現在が好機なので、人事院に改善申し入れの直談判を行うべきなど発言があった。本学会連合としては一般職での採用枠拡大を図ってゆきたい。
- 6) 新規参加学会の勧誘については、参加資格を会員数 1000 名以上とする申し合せ事項のな

いことを確認した。比較生理生化学は片山氏（日本生物教育学会）が，菌学会は邑田氏（日本植物学会）が，薬理学会は星氏（日本動物学会）がそれぞれ呼掛けを担当することとした。

- 7) その他事項として，組換え DNA 食品の必要性をアピールすべきとの意見とともに，国民に正確に伝えることは学会の使命であると発言があった。ポスドク人口が1万人間近となり，その就職先の問題が浮上しており，日本動物学会ではアンケート調査を実施したと報告があった。

来年度の世話役候補として日本生化学会が挙げられた。

以上